

音楽 I

科 (科目)	芸術 (音楽 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	1 年次～
使用教科書	教育出版「音楽 I Tutti+」				
副教材等	「改訂 音楽の鑑賞資料と基礎学習」教育芸術社				

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、基礎的な技能を高め、音楽のよさや美しさを感じ、音楽文化と関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

楽譜から楽曲のイメージをとらえることを目指す。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。 ・音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 	音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

4 評価基準・評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。 <p>〔評価〕 基礎的な理解や技能が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。 ・音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 <p>〔評価〕 音楽を知覚し、音楽表現が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C</p>	音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。 <p>〔評価〕 主体的に音楽活動に取り組む姿勢が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C</p>

5 学習の計画

	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	評価の観点	時間	評価方法
前 期	・歌唱	・楽曲の曲想を感じて表現する喜びを味わう。	abc	1 0	授業への 取り組み 出席状況
	・器楽	・楽器の特徴にふさわしい表現をする。	abc	1 5	
	・鑑賞	・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの特徴を味わう。	bc	1 0	
後 期	・歌唱	・楽曲の曲想を感じて表現する喜びを味わう。	bc	1 0	
	・アンサンブル (器楽)	・パートの役割を意識し、協力しあい合奏に参加する。	ab	1 0	
	・鑑賞	・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの特徴を味わう。	c	5	
	・創作	・知っている曲を変奏してみる。(リズム、拍子、強弱など)	b		

6 課題・提出物等

歌唱、器楽のテスト。プリント、感想文の提出。

7 担当者から一言

音楽の幅広いジャンルに興味を持って欲しいと思います。

美術 I

教科(科目)	芸術(美術 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	1 年次～
使用教科書	光村図書「美術 1」				
副教材等					

1 学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的、美的体験を重ね、美術の楽しさや価値を感じ、美術文化と関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

造形表現における基礎的な知識・技術の習得を目指し、発想力や表現力、美術に取り組む態度を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象を捉える造形的な見方などの基礎について理解を深めている。また、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや表現の意図などについて考察し、柔軟に発想し構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術文化に親しみ、表現する楽しさを感じ、美術の幅広い創造活動に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準・評価方法 a

知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
対象を捉える造形的な見方などの基礎について理解を深めている。また、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表している。 〔評価〕 基礎的な理解や表現の工夫が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C	造形的なよさや表現の意図などについて考察し、柔軟に発想し構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。 〔評価〕 美術についての考察や、発想、構想が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C	美術文化に親しみ、表現する楽しさを感じ、美術の幅広い創造活動に主体的に取り組もうとしている。 〔評価〕 創造活動に主体的に取り組む姿勢が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C

5 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	評価の観点	時間	評価方法
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・レタリング ・色彩構成 ・写真 ・デッサン 	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術 I」の学習について、授業を受ける時の注意。 ・文字の描き方の基本を理解する。 ・色の三要素について理解し、色彩構成の基礎を学ぶ。 ・カラーワークで絵具の特性と塗り方の技法を学ぶ。 ・テーマを設定して、色彩構成を行う。 ・テーマを設定して、構図やアングル、光と陰などを考えながら撮影する方法を学ぶ。 ・造形的なものの見方について学習し、形や陰影、立体感の表現を学ぶ。 	c	1	学習活動の様子 作品の内容 作品カード
			a abc	4 1 2	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩画 ・立体模刻 ・鑑賞(模写) 	<ul style="list-style-type: none"> ・静物をモチーフとして、構図の取り方、油絵の具の使い方や塗り重ねについて学ぶ。 ・粘土を使用して、立体感覚を養う。 ・自然物(石)をよく観察し、主題に合った着彩を行う。 ・画集を利用して、作家研究の鑑賞レポートを作成し、模写の制作を通して理解を深める。 ・1年間の学習を振り返り、学んだことを整理する。 	abc	1 7	学習活動の様子 作品の内容 作品カード
			ac	1 0	
			c	8	

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

各単元での作品提出

7 担当者からの一言

主体的に授業に臨み、様々な単元の中で造形体験を増やししながら、自己の感性や表現力を高めてください。

書道 I

教科(科目)	芸術(書道 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	1 年次～
使用教科書	光村図書「書 I」				
副教材等					

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、様々な表現方法を学び、「生きた書」を実践できる能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

さまざまな書の美にふれ、表現技術を高め創作へといかしていく。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
筆から生み出される表現方法を理解し、目的に即した効果的な表現をしている。	作品に合った字形、文字の大きさなど全体の構成や表現形式を工夫している。	書に親しみ、書くこと表現することを楽しみ、積極的に取り組もうとしている。

4 評価規準・評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
筆から生み出される表現方法を理解し、目的に即した効果的な表現をしている。 〔評価〕 基礎的な表現方法が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C	作品に合った字形、文字の大きさなど全体の構成や表現形式を工夫している。 〔評価〕 作品に合った表現の工夫が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C	書に親しみ、書くこと表現することを楽しみ、積極的に取り組もうとしている。 〔評価〕 作品制作に主体的に取り組む姿勢が十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C

5 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	時間	評価方 法
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ・筆による表現の基礎 ・漢字の書 ・篆刻 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆の機能を理解して書く。 ・楷書、行書を通して豊かな書の美を表現する。 ・印を刻す技法を学ぶ。 	ac	7	提 出 作 品 の 内 容
			abc	1 8	
			ac	1 0	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書 ・仮名の書 ・漢字かな交じり書 ・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体構成、表現方法、用具用材を工夫していろいろなサイズの紙に制作する。 ・かな技法と表現方法を通して日本の美を学ぶ。 ・漢字と仮名の融合を図り、身近なコトバを工夫して表現する。 ・作品の制作過程や完成した作品を鑑賞する 	abc	1 0	提 出 作 品 の 内 容
			bc	1 0	
			abc	1 2	
			c	3	

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

制作過程の作品、完成作品の提出。

7 担当者からの一言

学年末には創作作品に押印できるようにひとつずつ学んでいきましょう。

工芸探究

教科(科目)	芸術科	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科・1年次～(社会人)
使用準教科書	「陶芸ノート」視覚デザイン研究所				
副教材等					

1 学習の到達目標

工芸のより高度で創造的な探究活動を通して、工芸の文化と深く関わる資質・能力を高め、工芸を愛好する心情を深めることを目指す。

2 指導の重点

工芸に対する理解を深め、幅広い素材による表現とそれらを生かした主体的な探究活動に重点を置く。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・陶芸 ・七宝焼 ・金属工芸 ・籐細工 ・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間授業計画の説明。 ・手びねり、ろくろ成型による基礎技法、応用技法。 ・銅板の加工からの制作。ガラス胎七宝を含む。 ・鑄金の技法を中心に学ぶ。 ・編み込みによる模様、形づくりの技法。 ・正倉院展などの映像資料による。 	1	授業態度
			12	発想、制作の過程
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ・探究制作 ・鑑賞 ・1年間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作意図により、学んできた各種の素材から選択。また、異素材の組み合わせによる発展技法の探究。 ・日本伝統工芸展などの映像資料による。 ・随時、相互鑑賞を取り入れる。 ・学んだこと、探究の成果の振り返り。 	6	制作技術
			6	作品
			4	鑑賞の記録
			30	授業態度
				制作意図
				制作過程
				制作技術
			4	鑑賞の記録
			1	レポート

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

各単元での構想スケッチ、作品、鑑賞の記録、レポート提出

5 評価規準・評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工芸の表現技法を理解し、材料や用具を活用する技能を身につけ、意図に応じて制作過程全体を見通した制作方法を探究し、個性を生かして創造的に表している。 [評価] 制作方法や、作品の独創性、完成度の高さが 十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C	工芸の伝統と文化に対する理解を深め、生活や社会の中の工芸を多様な視点で考え、独創的に発想し、意図をもって構想を練っている。 [評価] 工芸についての考察や、発想、構想の過程における試行錯誤が 十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C	生活や社会の中で生かされる工芸を愛好し、機能と美しさの幅広い探究活動に主体的に取り組もうとしている。 [評価] 工芸を愛好し、主体的に探究する姿勢が 十分満足できる状況・・・A おおむね満足できる状況・・・B 今後の努力が望まれる状況・・・C

6 担当者からの一言

工芸は単に鑑賞の対象ではなく、生活の中で生かされる機能と美しさを兼ね備えた芸術です。制作や鑑賞を通じた探究活動により、生活を豊かなものにしてほしいと願います。